

第8回 日本海における大規模地震に関する調査検討会 議事要旨

日時：平成26年8月26日（火）13:00～15:00

場所：中央合同庁舎第3号館10階共用会議室A

1. 結果概要

- ・調査検討会報告書(案)が議論され、内容について了承された。なお表現の一部誤植等の修正については委員長預かりとなった。
- ・各委員から今後の調査・研究、津波対策について意見が出された。

2. 主な説明や意見等

(1) 報告書(案)について

- ・海底断層WG報告書(案)が提出され、調査検討会において了承された。
- ・調査検討会報告書(案)が議論され、内容について了承されたが、なお表現の一部誤植等の修正については委員長預かりとなった。

(2) 今後の調査・研究、津波対策に関する意見

- ・日本海の沖合領域の地殻構造等まだまだ知見が不十分なところもあることから、文科省の「日本海地震・津波調査プロジェクト」等の調査研究を進めていく必要がある。
- ・日本海側の地震は、太平洋側に比べ発生頻度が少なく、繰り返し性に関する知見が少ない。今後は日本海側の地震の切迫性に関する研究をしっかりと進めて欲しい。
- ・今後新しいデータが出てきたら躊躇無く取り入れて反映して欲しい。
- ・海底地滑り、火山噴火による津波については、本検討会において検討していないことから、今後研究を進める必要がある。
- ・石川県よりも北側で発見されている津波堆積物と、過去に津波を起こした日本海側の海底断層との対応がはまだよくわかっていないことから、本検討会を契機に堆積物を一つ一つ検討していく必要がある。
- ・能登半島から西側で最大クラス津波の断層モデルが設定されたことは非常に意義が大きい。若狭湾から西側における最大クラスの津波を想定する上で必要となる断層運動等の地震のメカニズムは今後も引き続き調査する必要がある。
- ・日本海側では非常に短い時間で津波がやってくる恐れがあることから、避難訓練等を自治体で促進し、できるだけ被害が少なくなるような取り組みを進めていきたい。
- ・今回初めて日本海側の最大クラスの津波をもたらす断層モデルを統一的に公表したことから、日本海側沿岸の道府県による津波浸水想定の設定・公表が進むことを期待する。

以上